

# 教務だより

2013年10月号  
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

## やる気の神様

茗溪塾塾長 宇野 雅春

「やる気の神様」はどうもいるらしいのです。夏休みも終わり、あわただしい日々がすぎているなかで、ふと気づきました。夏以前はあんなにやる気のなかったTさんが、急に勉強をしはじめたのです。ちょっと教室をのぞいてみても、明らかに以前のTさんとは違っていています。人が変わったように授業に集中しています。成績も前より上がっているし、これはどうも本物らしいのです。神業という言葉通り「神様の仕業」に違いないと思えるのです。

一方で、Y君は以前にも増してやる気がありません。ちょっと面倒な問題が出てくると後ろの友だちに話しかけたり、授業中なのに大声を上げたり、先生に叱られるとふてくされたり、以前にもましてやる気が損なわれている感じです。これはたぶん「やる気の神様」に見放されたということなのだと思います。

毎年繰り返されることですが、秋も少しずつ深まる頃、教室のほとんどは、この「やる気の神様」にとりつかれた人で埋め尽くされてきますが、一方で「やる気の神様」に見放された人も出てきます。この違いは何なのか考えてみました。

「やる気」は、もともと本人たちが持っているものだと思います。それがうまく引き出される人と、埋もれたまま終わってしまう人がいるわけです。塾や予備校に通っていても、いつも不満を抱えている人は、もともと自分からやろうという気が乏しく、いつも「あれをしなきゃ、これをしなきゃ」と口では言いながら、なかなか手がつかない人です。

黙々とやるべきことをこなしていって、そのうえで自分の時間をつくり、やりたいことも思いっきりやるのが理想です。しかし、言うは易し、行方は難しです。困ったときの神頼み、「やる気の神様」を呼ぶしかありません。どんな人のところに「やる気の神様」は登場してくれるのでしょうか。まとめてみました。

- ① 学習スケジュールを崩さない（塾は休まない！）
- ② 自分にとって今一番大切なことを考えて行動する
- ③ たくさんある問題もあせらず一つひとつこなす
- ④ 「取捨選択」を心がける
- ⑤ ちょっと辛いときもぐっとこらえてやり続ける
- ⑥ 何ごとともまず経験という姿勢で取り組む

次にいっこうにやる気が起きてこない生徒というのは、どんな生徒なのでしょう。これもまとめてみると、

- ① しょっちゅう自分の都合でスケジュールを変える
- ② 目新しいものに手をつける
- ③ 自分を甘やかす（共通して親に甘やかされている）
- ④ 自分が楽になる理論にすぐ飛びつく
- ⑤ 忙しい！とヒステリーを起こす
- ⑥ 何でもやる前からわかった気になってしまう（実はわかったつもりで本質的にわかっていないことが多い）

受験が近づくといろいろなことがあります。生徒や父母と話し合うことも多くなってきます。誰もがこの「やる気の神様」を探してさまよっているように思えます。中学受験・高校受験・大学受験それぞれのレベルで、みんな「やる気」を求めています。私が長い指導経験のなかから思うことは、辛いことのいくつかのヤマを必死で越えたとき、そして何か夢中でやりきったとき、この「やる気の神様」がほほえんでくれるのです。ただ待っているだけではそれは訪れないということかもしれません。

（塾長著書「合格への道しるべ」より）